

アストマックス株式会社 個人投資家説明会資料

(東証JASDAQ : 7162)

2019年2月

本日配布した資料に記載されております将来に関する記載につきましては、
本資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、
確約や保証を与えるものではなく、不確実性が含まれておりますので、予めご了承ください。
なお、P16,P29,P33は説明会の内容を踏まえ追記しております。

Copyright © 2019 ASTMAX Co.,Ltd. All rights reserved.



アストマックスグループのご紹介

1. アストマックスグループについて
2. 事業紹介
3. 2020年に向けての中期ビジョン

Innovation & Governance for 2020

4. 決算状況
5. ご参考資料

■代表取締役社長 本多 弘明（ほんだ ひろあき）



昭和31年（1956年） 北海道小樽市生まれ
昭和54年（1979年） 神戸商科大学商経学部卒業
昭和54年（1979年） 住友商事株式会社
資金調達・運用、為替取引、リスク管理
プロジェクトファイナンス業務に従事
平成 9年（1997年） ウエストドイッチェ・ランデスバンク
平成13年（2001年） 同社 エグゼクティブディレクター
平成15年（2003年） アストマックス・アセット・マネジメント
株式会社 代表取締役社長
平成22年（2010年） アストマックス株式会社
代表取締役社長

現在に至る

1.アストマックスグループについて：



創業：1992年9月14日

お蔭様で、
2018年9月14日に
創業26周年を迎えました。

2006年ジャスタック上場
現在に至る

1.アストマックスグループについて：

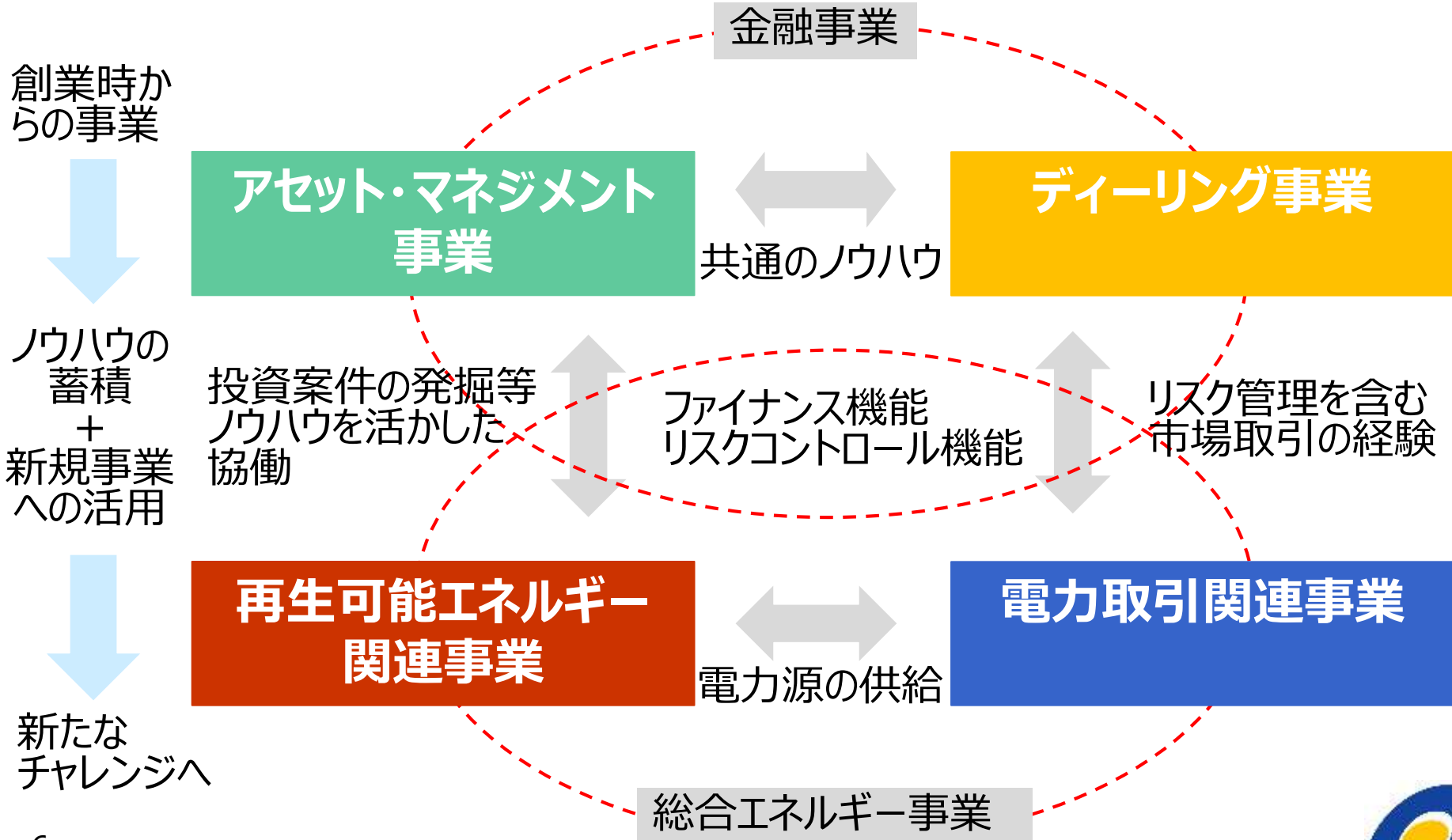
金融事業
×
総合エネルギー事業

私たちの未来を考える
Spirit of Challenge

Advanced Strategic Trading Management & Advisory

アストマックスは、
創業以来、培ってきたノウハウを活用し、
金融事業と総合エネルギー事業を通じて、
将来にわたり豊かで、安心して生活できる環境づくりに
貢献する企業グループでありたいと考えています。

- 役職員約100名で、以下のコア4事業に従事。



1.アストマックスグループについて：

事業相関図2

金融事業

アセット・ マネジメント事業

個人・機関投資家・年金に
対する金融商品取引業者
(投資運用業)

ディーリング事業

自己資産運用業

- ・金融商品の運用スキル
- ・取引・リスク管理手法
- ・集団投資スキーム設定の
経験値

創業時からのノウハウ
の蓄積

総合エネルギー事業

再生可能エネルギー 関連事業

2012年～
太陽光・地熱発電事業
・開発運営、保守管理
・ポートフォリオの入替を
通じたビジネス拡張

- ・集団投資スキーム経験値
の活用
- ・法務関連経験値の蓄積
- ・リスク管理手法をエネル
ギー開発で活用

蓄積されたノウハウの活用

電力取引関連 事業

2016年～
小売電気事業者向け
・システム提供
・業務代行サービス
・電力取引

- ・小売電気事業者支援
- ・ファイナンス機能提供
- ・電力卸売市場の担い手
- ・リスク管理手法を電力
取引で活用

アストマックスグループのご紹介

1. アストマックスグループについて
2. **事業紹介**
3. 2020年に向けての中期ビジョン

Innovation & Governance for 2020

4. 決算状況
5. ご参考資料

2. 事業紹介：

ア 1. アセット・マネジメント事業

長期資産形成事業（Yahoo! JAPANと共に）
大学発ベンチャーファンド（東京理科大学と共に）

デ 2. ディーリング事業

再 3. 再生可能エネルギー関連事業

地熱発電事業（宮崎県えびの市）

電 4. 電力取引関連事業

5. 地方創生事業

長万部アグリ（北海道長万部町）

2-1. アセット・マネジメント事業

事業内容：金融商品取引業者（投資信託の組成、運用ほか）

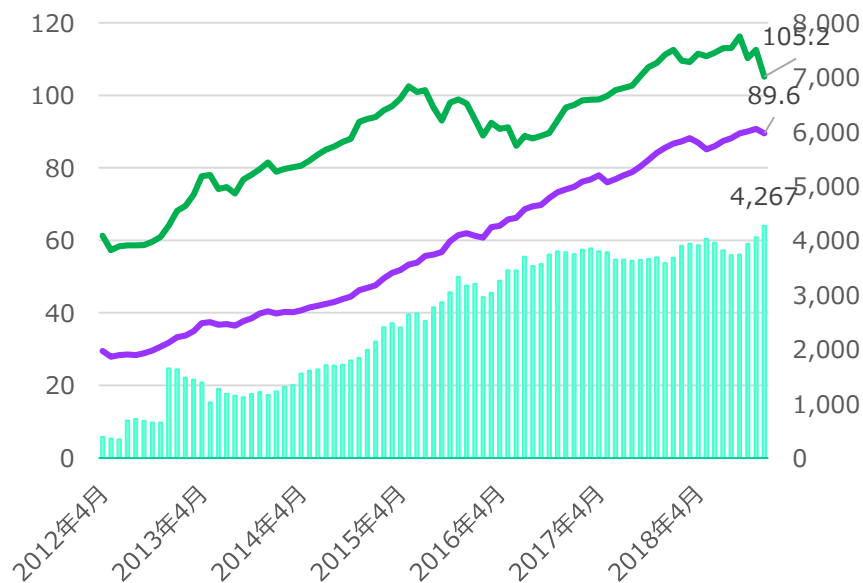
➤ 運用資産残高の構造：私募投資信託＋公募投資信託の残高

私募投資信託の主な顧客：地方金融機関

公募投資信託の主な顧客：各金融機関を通じた個人（長期資産形成事業）

➤ 当事業の2018年12月末時点運用資産残高：4,267億円(前年度末比+326億円)

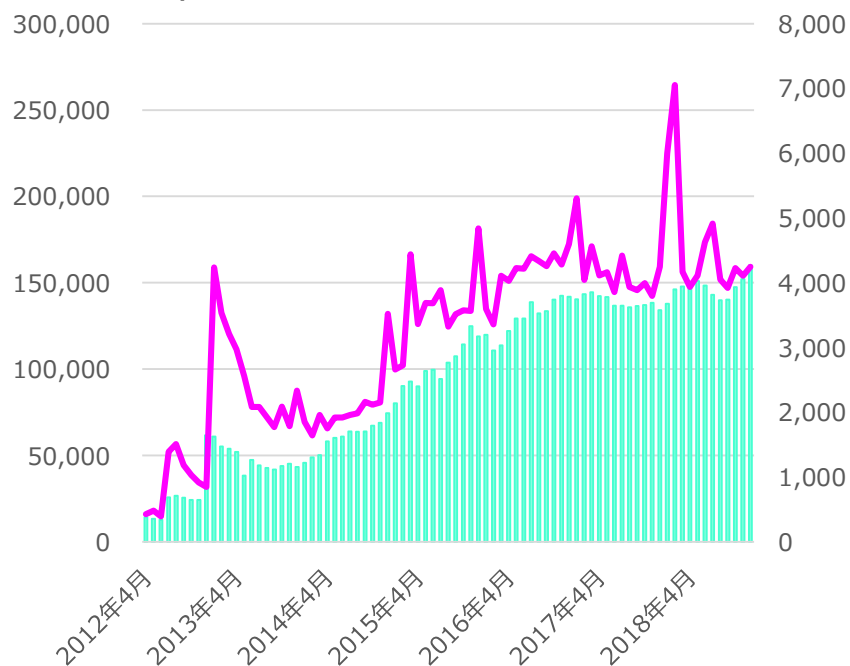
国内投信純資産総額と
運用資産残高の推移



■ 当社グループ運用資産残高 (右軸、億円)
 ■ 公募投信 (左軸、兆円)
 ■ 私募投信 (左軸、兆円)

出典：投資信託協会

営業収益と運用資産残高の推移



■ 当社グループ運用資産残高 (右軸、億円)
 ■ 営業収益 (左軸、千円)

Copyright © 2019 ASTMAX Co.,Ltd. All rights reserved.



2016年8月：

Yahoo! JAPANとの間で資本・業務提携契約締結

アストマックス投信投資顧問株式会社

Magne-Max Capital Management

おカネに働いてもらう楽しさをすべての人に

- 人材交流
- 長期資産形成事業

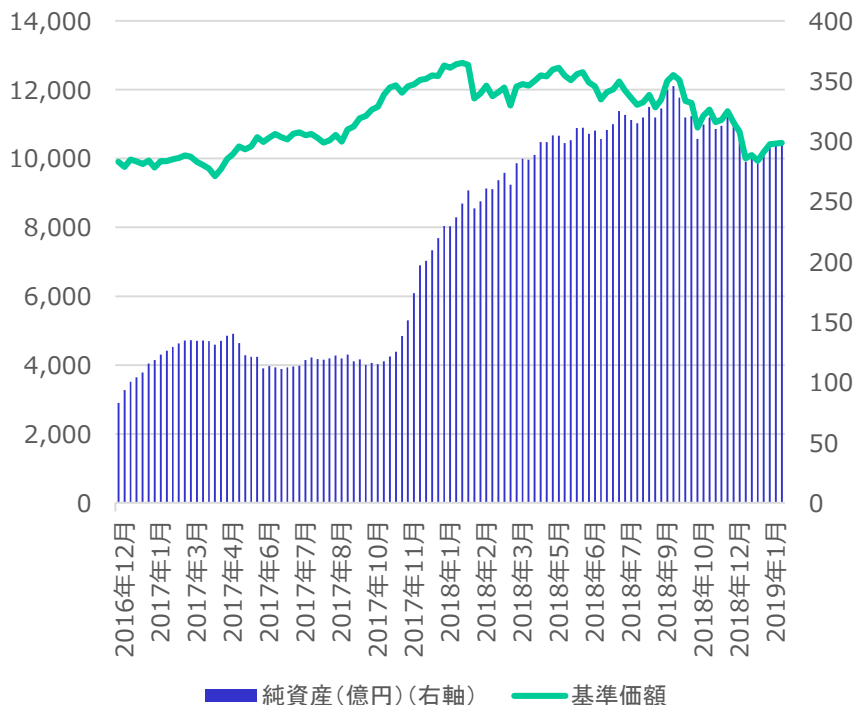
ヤフー株式会社

Yahoo! JAPANとの協働により公募投資信託設定

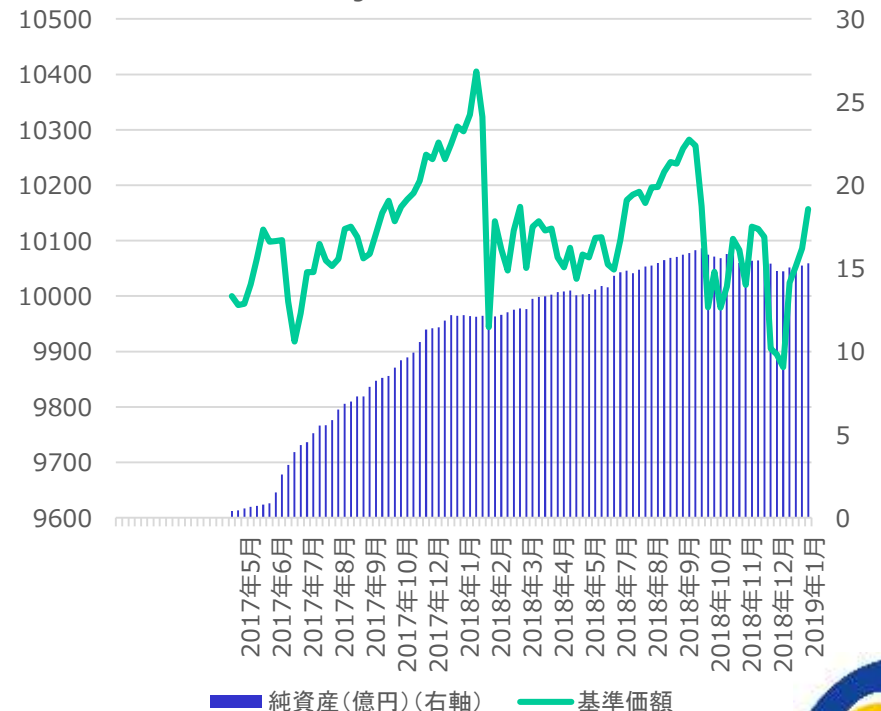
2016年12月：Yjamプラス！、2017年4月：Yjamライト！

■ 基準価格と純資産額の推移

Yjamプラス！



Yjamライト！



学校法人東京理科大学が主に出資する
大学発ベンチャーキャピタルファンドに、当社グループ会社
アストマックス・ファンド・マネジメント株式会社が
GP（無限責任組合員）として運用受託して3年経過。

- 東京理科大学が有する技術・研究成果等を活用しながら
地域活性化につながる企業への出資及び大学運営に
資する出資等を実施し、出資先企業の価値向上等を通じて
広く社会に還元及び寄与することを目指す。

2-2.ディーリング事業：

事業内容：

東京商品取引所、CME、ICE等、国内外の主要取引所において商品先物を中心に、株価指数等の金融先物を取引対象とした自己勘定取引を行っています。

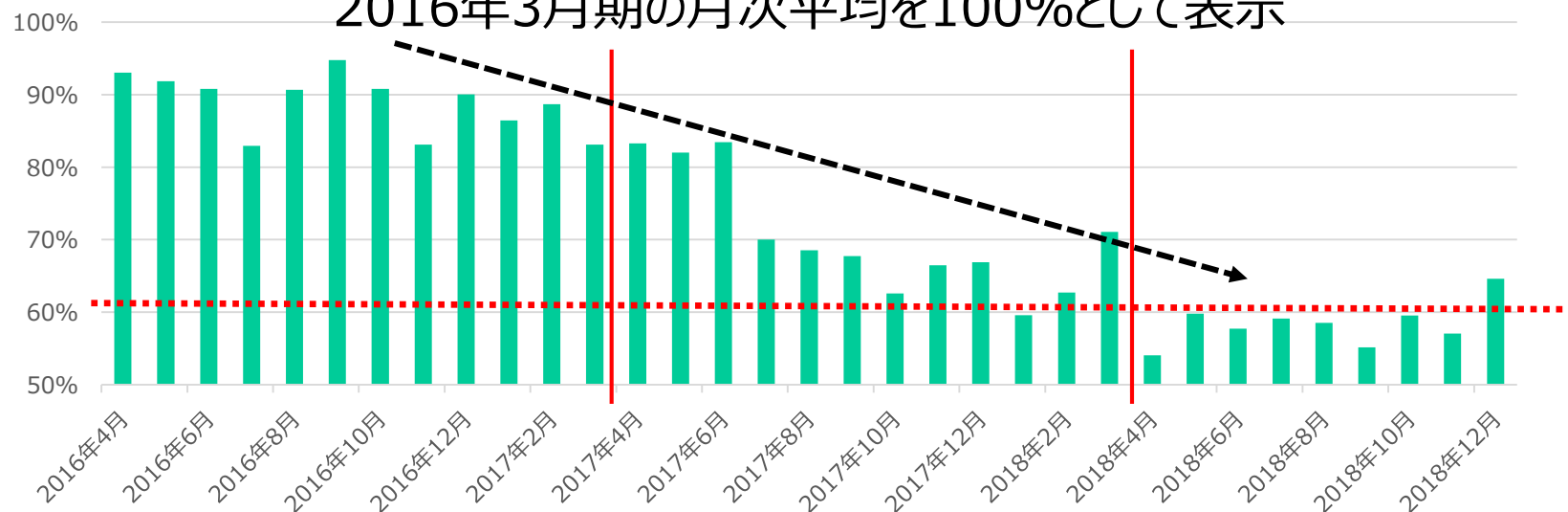
<ディーリング事業経費率改善に向けた施策>

- 管理部門の業務効率化による人的コスト削減
- 情報端末やオフィススペース等の見直し

<新規ビジネス機会>

- 電力先物新規上場
- 中国市場の海外への開放

ディーリング事業の販売管理費の推移（除く取引コスト）
2016年3月期の月次平均を100%として表示



取引コストを除く、ディーリング事業の販売管理費はこの3年間減少。
特に2017年7月からより一層減少した。

太陽光発電事業関連のIR：

■ 2019年3月期

- 7月：奈半利ソーラー発電所増設分譲渡完了
- 12月：大分県中津市内太陽光発電設備完工、譲渡完了
栃木県栃木市の太陽光発電設備（約2.0メガワット）取得
岩手県奥州市の太陽光発電設備（約0.9メガワット）取得



大分県中津市の太陽光発電設備

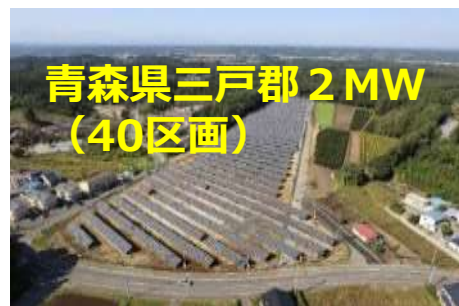
2-3.再生可能エネルギー関連事業：太陽光発電事業の実績

合計約23.9MWを開発・稼動済

売却：合計13.3MW（50%）

保有：合計13.4MW（50%）

開発中：1箇所2.2MW



太陽光発電事業に加え、 ベースロード電源となる地熱発電事業へ

地熱発電事業関連のIR：

■ 2019年3月期

宮崎県尾八重野地域

- 5月：調査井（2号井）地熱資源量調査
- 6月：調査井（3号井）掘削開始
- 9月：調査井（3号井）掘削完了
- 1月：調査井（3号井）仮噴気試験⇒自噴確認



3号井

1. 尾八重野地域における地熱の開発の経緯

2015年2月：2メガワット級の開発を前提に地表調査を実施。

事業計画の概要

発電規模

1,990～4,990 kW（計画）

開発計画地

宮崎県えびの市東長江浦（尾八重野地域）

事業主体

アストマックス・トレーディング株式会社

現開発ステージ

2016年 調査井（1号井）掘削完了

2017年 調査井（2号井）掘削完了

2018年 調査井（3号井）掘削完了

2019年1月 調査井（3号井）仮噴気試験実施

2. 尾八重野地域における 地熱開発の現状



1号調査井の自噴



3号調査井の自噴

2-4.電力取引関連事業：

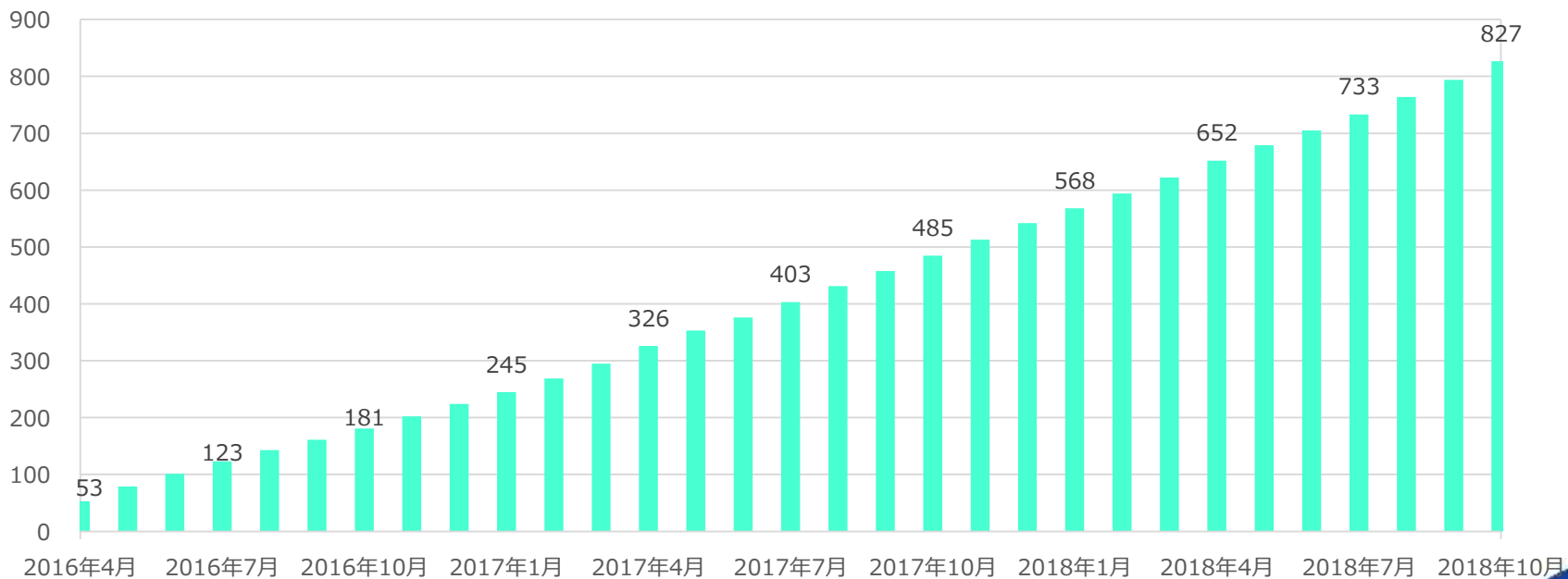
ディーリング事業と再生可能エネルギー関連事業のノウハウを基に、2016年4月の電力小売全面自由化の流れを受け2015年11月よりスタート。

<新電力の動向>

新電力への切替件数：827万件（2018年10月末）

小売電力事業者：520事業者（2018年10月現在）← 464事業者（2018年3月末）

■ 日本国内の新電力の切替状況



2-4.電力取引関連事業：

■ 主な事業内容

1. システム提供
2. 業務代行サービス
3. 電力取引

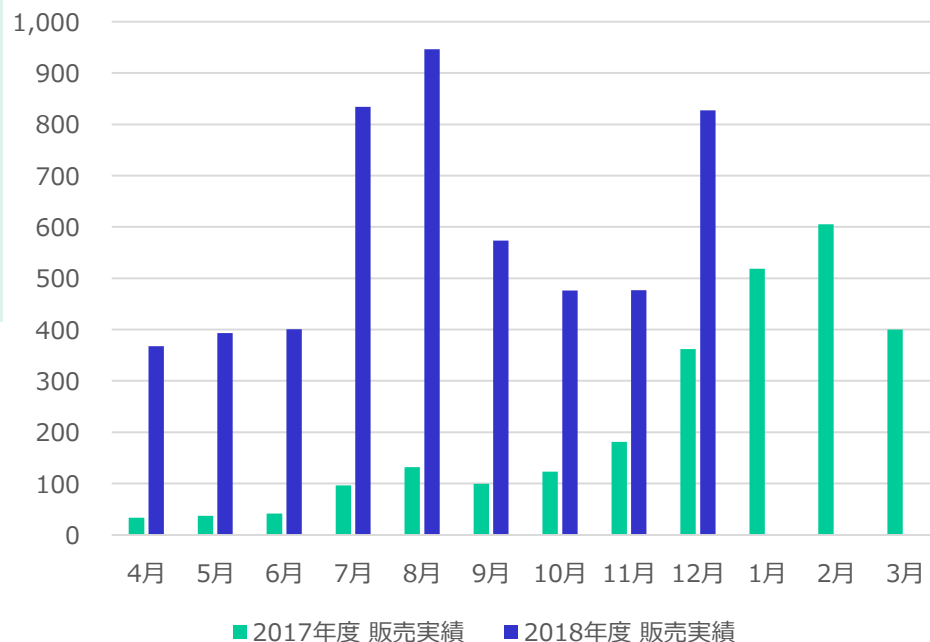
需要予測・バラシング・計画値提出

- 豊富な需要家プロフィールから信頼性の高い需要予測結果の提供
- ポートフォリオを最適化し、調達コスト抑制および事業リスク低減のご提案
- インバランス・リスク清算サービスによるリスク回避と事業コストの早期確定



システム販売・代行サービスの顧客数：
7社

■ 当事業の電力販売実績（百万円）



2018年6月：長万部アグリ(株)の第三者割当増資の引受（子会社化）

- 北海道長万部町における「町と東京理科大学の連携による再生可能エネルギーを活用した先進的アグリビジネス事業」の確立を目指す。
- 東京理科大学の研究成果の応用、大学発ベンチャーキャピタルファンドとの協働、長万部町の地元資源の活用、地元自治体及び地元企業との協力。
- 「経済的に成り立つ」農業の実践を目指す。
- 長万部アグリ(株)のトマトセットが長万部町の「ふるさと納税返礼品」セットに採用されました。



「ふるさと納税返礼品」セットの写真



アストマックスグループのご紹介

1. アストマックスグループについて
2. 事業紹介
3. 2020年に向けての中期ビジョン

Innovation & Governance for 2020

4. 決算状況
5. ご参考資料

3-1.中期ビジョン（2016年策定）：

4年後の2020年に向けて当社グループの目指すべきこと

持続的な企業価値の向上
非連続の成長



①強固な
財務基盤

キャッシュ創出力
自己資本の充実



②収益力
成長力

伸びしろのある
新たな事業へのチャレンジ



③人財育成力
組織力

人材育成のための環境整備
働く意識改革

価値観の共有と多様性

◆ 基本理念：

Innovation & Governance（イノベーション&ガバナンス）
「社会的意義のある新たな事業価値の創造」
「それを実現可能とする統制のとれた組織の構築」

◆ 株主還元方針

- 原則として配当性向30%を維持
- 連結子会社（アストマックス投信投資顧問株式会社）株式譲渡による資本剰余金増加額の30%を目途とする金額を三分割し、2017年3月期より3年間にわたり特別配当を実施する方針

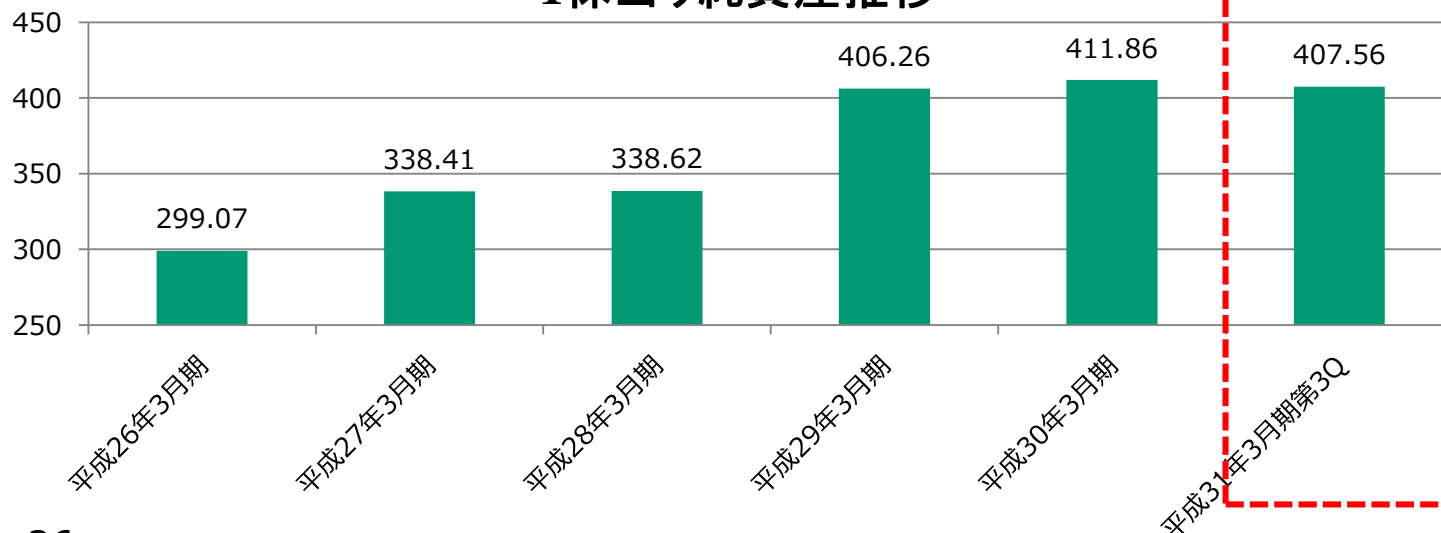
◆ ガバナンス体制

- 取締役会とグループ経営会議等による機能強化とグループ経営重視
- 持株会社体制における経営資源の適正配分と効率性向上

3-3.中期ビジョン3年目の途中経過

		1年目	2年目	3年目	4年目
目指すべき指標	2016年 3月期 (実績)	2017年 3月期 (実績)	2018年 3月期 (実績)	2019年 3月期 3Q 時点	2020年 3月期 (目標)
配当後株主資本	44億円	53億円	54億円	53億円	60億円程度
連結営業収益	30億円	35億円	61億円	78億円	45億円以上
連結ROE	3.6%	0.04%	3.0%	1.3%	8%以上

1株当り純資産推移



持続的な企業価値の向上のための人財育成と開発に向けた8つの施策

持続的に企業価値を向上させるためには、「自走できる集団」となること。そのため、「人財の育成と開発」に全力で取り組むことを重要な経営方針の一つと位置づけ、2017年第2四半期から以下の具体的施策を開始しました。（取り組み予定含む）

① 1 ON 1
ミーティング

② 360度
多面観察

③ 育成研修
基礎研修

④ 日々のヒント教室
リーダーシップ教室

内省支援
経験学習

気づき力
考える習慣

自走する力

組織的
人財育成

従業員満足度
モチベーション

⑤ 人財開発
育成会議

⑥ 採用フロー
フォローアップ

⑦ 人事制度
適正な評価

⑧ E S 調査

アストマックスグループのご紹介

1. アストマックスグループについて
2. 事業紹介
3. 2020年に向けての中期ビジョン

Innovation & Governance for 2020

4. 決算状況
5. ご参考資料

連結損益計算書

単位：百万円	【第6期】 2018年 3月期第3Q	【第7期】 2019年 3月期第3Q	対 前年 同期間比	対前年 同期間比 (%)
営業収益	3,605	7,807	+4,201	+116.5
営業費用	3,515	7,699	+4,183	+119.0
営業利益	89	108	+18	+20.2
営業外収益	9	38	+29	
営業外費用	92	55	△36	
経常損益	6	90	+83	
特別利益	-	144	+144	
特別損失	0	18	+18	
税前利益	6	216	+209	
法人税等合計	73	93	+19	
非支配持分	41	51	+10	
親会社株主に帰属 する四半期純損益	△108	71	+179	

アセット・マネジメント事業：
+66百万円
ディーリング事業：
+5百万円
再生可能エネルギー関連事業：
△72百万円
電力取引関連事業：
+4,182百万円

電力取引関連事業の営業収益
増加に対応する売上原価増加
+4,139百万円
アセット・マネジメント事業の売上原
価増加 +100百万円
販売管理費 △22百万円

発電所保守費用見直し +15百万円
発電所建設遅延損害金 +17百万円

借換による支払利息の減少
△35百万円

大分県中津市太陽光発電所譲渡益
奈半利ソーラー発電所増設分譲渡益
+144百万円

農業関連企業への出資の評価損
+18百万円

連結貸借対照表

単位：百万円	【第6期】 2018年 3月期	【第7期】 2019年 3月期第3Q	対 前年度末比	対 前年度末比 (%)	
流動資産	5,956	7,108	+1,152	+19.4	製品（売却目的で取得した太陽光発電設備） +1,131百万円
固定資産等	6,121	6,390	+268	+4.4	建設仮勘定 +141百万円
資産合計	12,077	13,498	+1,421	+11.8	
流動負債	1,996	3,367	+1,370	+68.7	短期借入金 +827百万円
固定負債	4,138	4,233	+94	+2.3	営業未払金 +597百万円
負債合計	6,134	7,600	+1,465	+23.9	長期預り保証金 +76百万円
株主資本	5,417	5,359	△58	△1.1	株主配当による利益剰余金の減少
純資産	5,942	5,898	△44	△0.7	△144百万円
総資産	12,077	13,498	+1,421	+11.8	

アセット・マネジメント事業：2019年3月期第3四半期

- 5月末時点で過去最高額4,027億円を達成。以降、スワップ取引を対象としたファンドの満期償還や米ドルへの連動を目指すファンドからの資金流出等もあり9月末は前年度末比減少。その後、日本株への連動を目指すファンドに資金が流入し12月末時点で過去最高額を達成。
- 営業収益は前年同期間比増加：報酬率が相対的に高いファンドの運用資産残高の減少等を受け、運用資産全体の報酬率が前年同期間比低下したものの、運用資産全体の残高は増加したことや、投資助言業務にかかる成功報酬を獲得した。
- 一方、運用権限の委託等に係るファンドの運用資産残高の増加を受け売上原価増加。セグメント利益は前年同期間比減少。

セグメント別連結累計期間の推移：

単位：百万円	2016年 3月期 第3Q	2017年 3月期 第3Q	2018年 3月期 第3Q	2019年 3月期 第3Q
営業収益	1,254	1,503	1,424	1,489
セグメント損益	268	306	151	135

当事業の運用資産残高
4,267億円
2019年12月末
(前年度末比+325億円)

2019年3月期会計期間別：

単位：百万円	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
営業収益	494	502	491	
セグメント損益	59	46	30	

ディーリング事業：2019年3月期第3四半期

- 商品市場は貴金属市場が上昇、原油市場が下落する展開となり、市場間の値差を利用した裁定取引で収益を確保した。
- しかしながら当第3四半期連結累計期間を通じてみると取引機会は限定的であり収益は伸び悩みの状況となった。
- 従来より取り組んでいる経費削減施策等の効果もあり、一定水準のセグメント利益を確保した。

セグメント別連結累計期間の推移：

単位：百万円	2016年 3月期 第3Q	2017年 3月期 第3Q	2018年 3月期 第3Q	2019年 3月期 第3Q
営業収益	633	506	365	370
セグメント損益	53	1	△72	11

2019年3月期会計期間別：

単位：百万円	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
営業収益	149	106	114	
セグメント損益	30	△10	△9	

<新規ビジネス機会>

- 2018年秋予定の電力先物新規上場
⇒事実上延期の様相
- 中国市場の海外への開放

上記、セグメント利益又は損失は連結財務諸表の経常利益又は経常損失と調整を行っており、連結会社間の内部取引消去等の調整額が含まれているため、合計金額と連結営業収益及び連結経常利益とは合致しません。

再生可能エネルギー関連事業：2019年3月期第3四半期

- 前連結会計年度に続き建設中の発電所の開発に係るコストを負担。
- 2018年3月に奈半利ソーラー発電所を譲渡したことや、西日本豪雨や台風の頻発により約7.8MWの熊本県の発電所が日射量に恵まれなかったため、営業収益は前年同期間比減少。
- 2018年3月に実施した融資の借換により借入コストが減少したことや、当社が受託している発電所の保守見直しによりコストを低減できたこともあり、セグメント利益は前年同期間比増加。

セグメント別連結累計期間の推移：

単位：百万円	2016年3月期第3Q	2017年3月期第3Q	2018年3月期第3Q	2019年3月期第3Q
営業収益	379	395	513	448
①セグメント損益	△181	△71	△14	24
②特別損益	-	-	-	126
③ = ①+②	△181	△71	△14	151

当事業のセグメント損益に含まれていないが、実質的に当事業に帰属するもの

- 特別利益：
奈半利ソーラー発電所の増設分の譲渡益12百万円
大分県中津市の太陽光発電設備譲渡益132百万円
- 特別損失：
農業関連企業への出資の評価損18百万円

2019年3月期会計期間別：

単位：百万円	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
営業収益	163	162	123	
①セグメント損益	17	33	△26	
②特別損益	-	△6	132	
③ = ①+②	17	27	106	

当事業のEBITDA
(営業損益+減価償却費)
第1Q：89百万円
第2Q：88百万円
第3Q：35百万円

電力取引関連事業：2019年3月期第3四半期

電力事業のうち電力取引：

- ▶ 顧客の多様な電力調達ニーズに対応するために取り組んでいた電力の調達及び販売の多様化が評価され、各種電力取引が複数件成立した。
- ▶ 電力取引が活発化してきたことにより、営業収益及び営業費用が大幅に増加。
- ▶ 電力取引のうち会計上現物取引である電力先渡取引については、当第3四半期連結累計期間において時価評価を行っていない。

セグメント別連結累計期間の推移：

単位：百万円	2016年 3月期 第3Q	2017年 3月期 第3Q	2018年 3月期 第3Q	2019年 3月期 第3Q
営業収益	0	151	1,305	5,487
セグメント損益	△31	△141	△57	△54

電力事業のうち
システム販売・代行サービス：
当社の顧客による小売電気事業者登録が完了し、事業が開始されたことを受け徐々に最終需要家数増加。

2019年3月期会計期間別：

単位：百万円	第1Q	第2Q	第3Q	第4Q
営業収益	1,230	2,405	1,852	
セグメント損益	△37	△13	△3	

上記、セグメント利益又は損失は連結財務諸表の経常利益又は経常損失と調整を行っており、連結会社間の内部取引消去等の調整額が含まれているため、合計金額と連結営業収益及び連結経常利益とは合致しません。

アストマックスグループのご紹介

1. アストマックスグループについて
2. 事業紹介
3. 2020年に向けての中期ビジョン

Innovation & Governance for 2020

4. 決算状況
5. ご参考資料

2019年3月期第3四半期トピック

<上期>

ア

4～8月：公募投資信託Yjamシリーズの販売会社5社追加

全

4月：剰余金の配当11円決議（普通配当4円05銭及び特別配当6円95銭）

再

5月：宮崎県尾八重野地域における地熱発電事業の2号調査井

再

地熱資源量の把握のための事業実施→地熱発電可能な熱水の存在を確認

再

6月：宮崎県尾八重野地域における地熱発電事業の3号調査井掘削開始

全

6月：長万部アグリ株式会社の第三者割当増資の引受（子会社化）

再

7月：奈半利ソーラー発電所増設分譲渡

再

9月：宮崎県尾八重野地域における地熱発電事業の3号調査井掘削完了

ア

10月：公募投資信託Yjamシリーズの販売会社2社追加

10月：ガス小売事業者登録完了

再

12月：太陽光発電設備（大分県中津市耶馬溪）譲渡完了

ア

アセット・マネジメント事業

デ

ディーリング事業

電

電力取引関連事業

再

再生可能エネルギー関連事業

全

グループ全体

当社グループ概要

純資産：5,898百万円
グループ役職員：92名

アストマックス株式会社
設立：2012年10月 資本金：2,013百万円
東証JASDAQ 7162

85% (持株比率)

長万部アグリ株式会社

再生可能エネルギー関連事業
ディーリング事業
電力取引関連事業

アセット・マネジメント事業

第二種金融商品取引業
投資運用業、投資助言・代理業
商品投資顧問業等

100% (持株比率)

66.6% (持株比率)

アストマックス・トレーディング株式会社
設立：1992年9月
資本金：1,000百万円

アストマックス投信投資顧問株式会社
設立：2004年5月
資本金：95百万円

100% (持株比率)

アストマックス・エナジー・サービス株式会社

匿名組合出資

株式会社八戸八太郎山ソーラーパークSouth

合同会社ヒト

合同会社あくとソーラーパーク

くまもとんソーラープロジェクト株式会社

合同会社霧島福山太陽光発電所

LPS出資 九州再生可能エネルギー投資事業有限責任組合

間接保有

アストマックス・
ファンド・マネジメント株式会社

20% (持株比率)

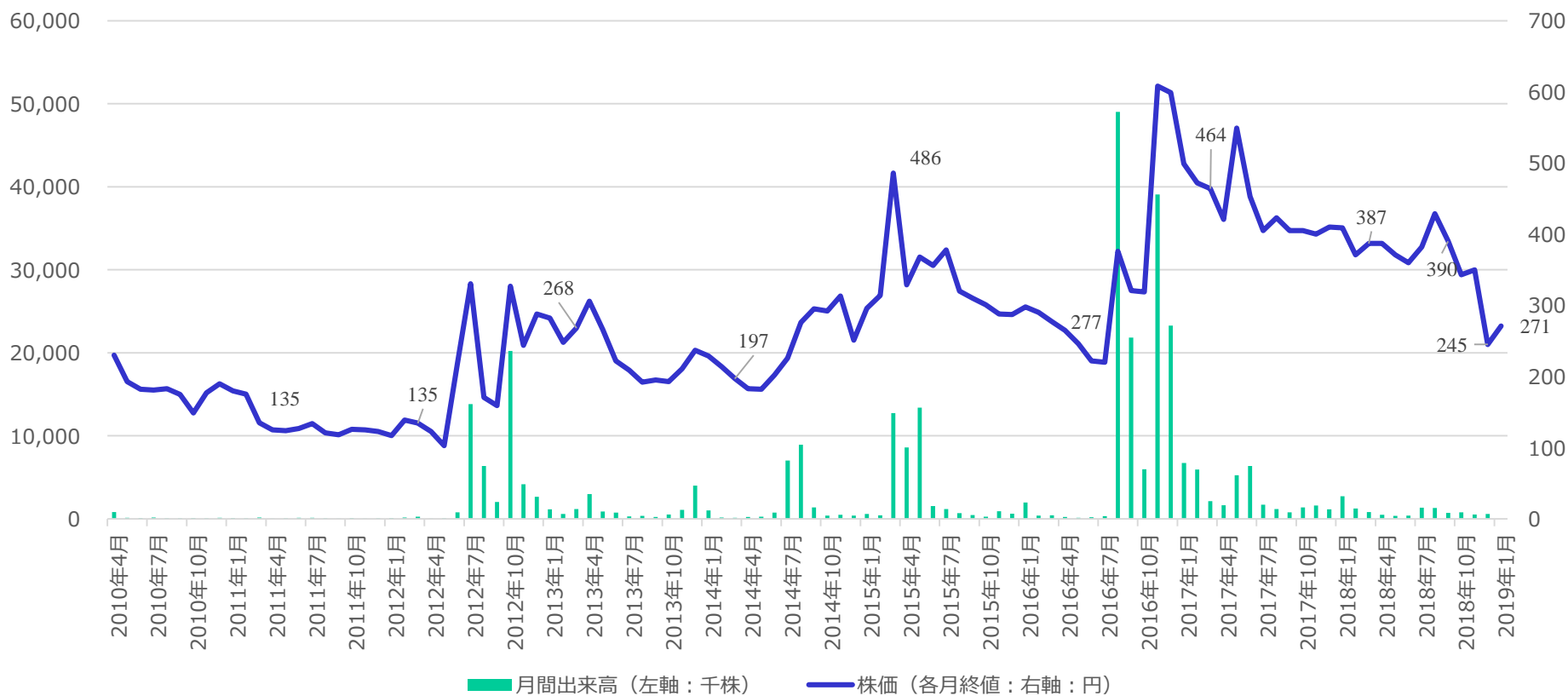
DAX (匿名組合)

経営指標等

決算期	2011年 3月期	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期第3Q
期末株価（円）	135	134.5	268	197	486	277	464	387	245
純資産額（百万円）	3,893	3,880	4,053	3,936	4,450	4,459	5,987	5,942	5,898
経常利益（百万円）	△95	△10	6	△86	554	160	100	△1	90
当社株主に帰属する 当期純利益（百万円）	△185	5	△4	△115	512	159	2	162	71
PBR(株価純資産倍率)	0.4倍	0.4倍	0.9倍	0.7倍	1.4倍	0.8倍	1.1倍	0.9倍	0.6倍
PER（株価収益率）	－	270.5倍	－	－	12.4倍	22.9倍	2,900倍	31.3倍	45.2倍
1株当たり配当額（円）	0	1.00	0	0	11.80	4.00	7.00	11.00	

(※) 当社は2012年10月1日付で株式移転により設立し、旧アストマックス株式会社株式1株に対し当社株を100株を割り当て交付し、単元株数を100株に変更した為2012年3月期以前の株価及び出来高は現在の基準に調整しております。

株価の推移



(※) 当社は2012年10月1日付で株式移転により設立し、旧アストマックス株式会社株式1株に対し当社株を100株を割り当て交付し、単元株数を100株に変更した為2012年3月期以前の株価及び出来高は現在の基準に調整しております。

アストマックス株式会社

ご清聴ありがとうございました。

本日配布した資料に記載されております将来に関する記載につきましては、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、確約や保証を与えるものではなく、不確実性が含まれておりますので、予めご了承ください。